

1. 需給見通し

農林水産省は、「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」(昭和40年法律第109号)により、四半期ごとに砂糖および異性化糖の需給見通しを公表している。3月に「2018砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第3回)」を公表した。

2018砂糖年度(10月～翌9月)の見通し

【砂糖】

総消費量：191万8000トン(前回見通しから8000トン減)

総供給量：188万トン(同2000トン減)

【加糖調製品】

消費量および供給量：53万9000トン(同1万1000トン増)

【異性化糖】

消費量および供給量：83万7000トン(同1万1000トン増)

(1) 砂糖の消費量

2017砂糖年度(10月～翌9月)の砂糖の消費量は、189万7000トン(前年度比1.7%減)となった(表1)。内訳を見ると、分みつ糖が186万1000トン(同1.7%減)、含みつ糖が3万6000トン(前年度同)であった。

2018砂糖年度の砂糖の消費量は、191万8000トン(前年度比1.1%増)と見通している。内訳を見ると、分みつ糖は、近年の消費動向を基に、景気は緩やかな回復基調が続いていることなどを踏まえ、188万トン(同1.0%増)と見通している。含みつ糖は、近年の消費動向などを勘案し、3万8000トン(同3.6%増)と見通している。

(2) 砂糖の供給量

2017砂糖年度の砂糖の供給量は、192万7000トン(前年度比2.0%増)となった。内訳を見ると、分みつ糖が190万7000トン(同2.0%増)、含みつ糖が2万トン(前年度同)であった。

2018砂糖年度の砂糖の供給量は、188万トン(前

年度比2.4%減)と見通している。内訳を見ると、分みつ糖が185万9000トン(同2.5%減)、含みつ糖が2万2000トン(同10.0%増)と見通している。国内産糖(分みつ糖)の供給量は、てん菜については、作付面積が前年産に比べて1.6%(約930ヘクタール)減少、作柄については春先の天候に恵まれ初期生育は順調に推移したが、6月中旬以降、多雨・寡照となり生育が停滞し、全体としては平年並みの生育となっていることから、産糖量は61万5000トン(前年産比6.4%減)、供給量は61万4000トン(精製糖換算。前年度比6.4%減)と見通している。

サトウキビについては、作付面積が前年産に比べて4.3%(約1010ヘクタール)減少、作柄については、梅雨期の少雨により各地域で干ばつが発生したことや6月の早い時期から台風が襲来したことにより一部地域で被害が見られるものの、平年並みの歩留まりとなることを見込んでいることから、産糖量は12万9000トン(前年産比3.8%減)、供給量は12万3000トン(精製糖換算。前年度比3.8%減)と見通している。

表1 2018砂糖年度における砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

	2017砂糖年度 (実績)	2018砂糖年度				合計		
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)			
消費量								
分みつ糖	1,861	495.5	426.8	482.3	475.3	1,880		
含みつ糖	36	6.6	15.1	9.4	6.6	38		
合計	1,897	502.1	441.9	491.7	481.9	1,918		
供給量	国内産糖	分みつ糖	784	363.4	323.1	50.2	-	737
		含みつ糖	10	0.8	9.0	1.5	-	11
		小計	794	364.2	332.1	51.7	-	748
	輸入糖	分みつ糖	1,123	329.8	176.7	295.8	319.9	1,122
		含みつ糖	10	1.7	4.6	3.1	0.8	10
		小計	1,133	331.5	181.3	298.9	320.7	1,132
	合計	分みつ糖	1,907	693.2	499.8	346.0	319.9	1,859
		含みつ糖	20	2.5	13.6	4.6	0.8	22
		小計	1,927	695.7	513.4	350.6	320.7	1,880
期末在庫	311	502.1	555.7	414.6	253.4	253		

資料：農林水産省「2018砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

(3) 加糖調製品の需給

2018砂糖年度の加糖調製品の消費量は、近年の輸入動向などを踏まえ、53万9000トン（前年度

比2.1%増）と見通している（表2）。また、加糖調製品の供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表2 2018砂糖年度における加糖調製品の需給見通し

(単位：千トン)

	2017砂糖年度 (実績)	2018砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	528	154.8	112.5	137.1	134.5	539
供給量	528	154.8	112.5	137.1	134.5	539

資料：農林水産省「2018砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注1：改正糖価調整法（2018年施行）に基づき調整金の対象とされた加糖調製品を対象としている。

注2：消費量は対象となる加糖調製品の輸入量（財務省貿易統計より算出）を踏まえて見通しており、供給量は消費量に見合った量が供給されるものとして見通している。

注3：2018砂糖年度の消費量は、2017砂糖年度の輸入実績を踏まえて見通している。

(4) 異性化糖の需給

2018砂糖年度の異性化糖の消費量は、近年の消費動向などを踏まえ、83万7000トン（前年度比

0.6%増）と見通している（表3）。また、異性化糖の供給量は、消費量に見合った量が供給されると見通している。

表3 2018砂糖年度における異性化糖の需給見通し

(単位：千トン)

	2017砂糖年度 (実績)	2018砂糖年度				合計
		10月-12月 (実績)	1月-3月 (実績見込み)	4月-6月 (見通し)	7月-9月 (見通し)	
消費量	832	182.2	187.2	244.8	222.8	837
供給量	832	182.2	187.2	244.8	222.8	837

資料：農林水産省「2018砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第3回）」

注：標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

2. 異性化糖の移出動向

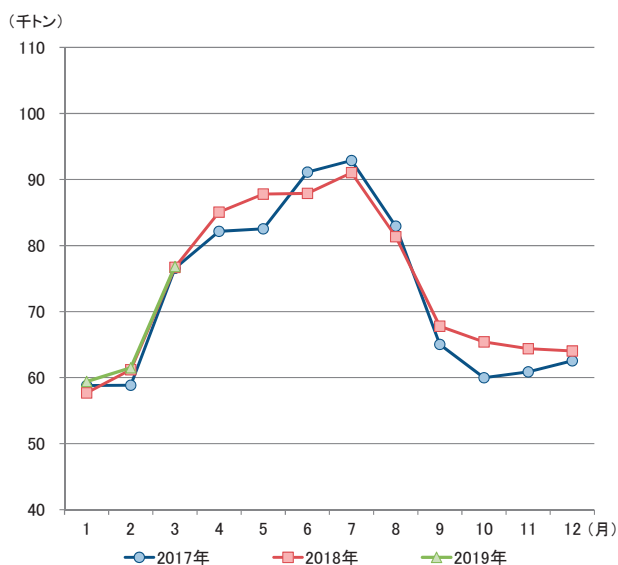
3月の移出量は前年同月からほぼ横ばい

2019年3月の異性化糖の移出量は、7万6830トン（前年同月比0.2%増、前月比25.0%増）であった（図1）。

同月の規格別の移出量は、次の通りであった（図2）。

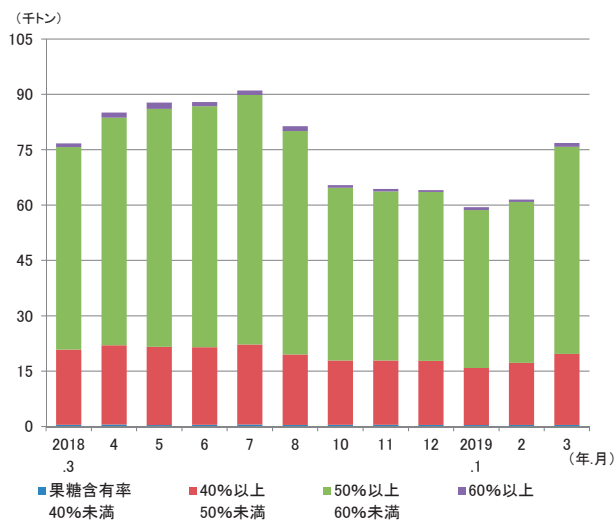
- 果糖含有率40%未満 404トン
（前年同月比15.7%減、前月比3.7%減）
- 同40%以上50%未満 1万9264トン
（同5.3%減、同14.4%増）
- 同50%以上60%未満 5万6149トン
（同2.3%増、同28.7%増）
- 同60%以上 1014トン
（同4.1%増、同65.5%増）

図1 異性化糖の移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図2 異性化糖の種類別移出量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

3. 輸入動向

【分みつ糖の輸入動向】

2月の輸入量は前年同月から大幅に減少

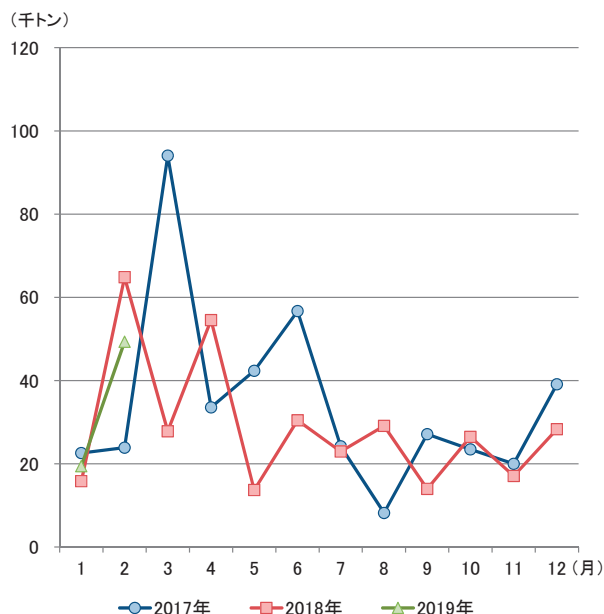
財務省「貿易統計」によると、2019年2月の分みつ糖（HSコード 1701.14-110）の輸入量は、4万9333トン（前年同月比23.9%減、前月比2.5倍）であった（図3）。

輸入先国はタイおよび英国で、国別の輸入量は次の通りであった（図4）。

- タイ 4万9332トン
（前年同月比22.7%減、前月比2.5倍）
- 英国 1トン
（前年同月および前月輸入実績なし）

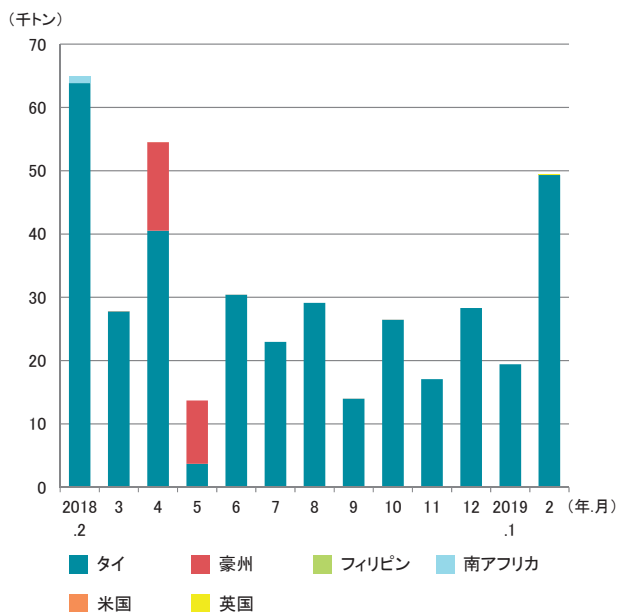
また、同月における豪州からの高糖度原料糖（糖度98.5度以上99.3度未満、HSコード1701.14-200）の輸入量は、3500トン（前年同月比87.0%減、前月輸入実績なし）であった。

図3 分みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110

図4 分みつ糖の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110

2019年2月の1トン当たりの輸入価格は、3万7854円（前年同月比7.5%安、前月比1.0%安）であった（図5）。

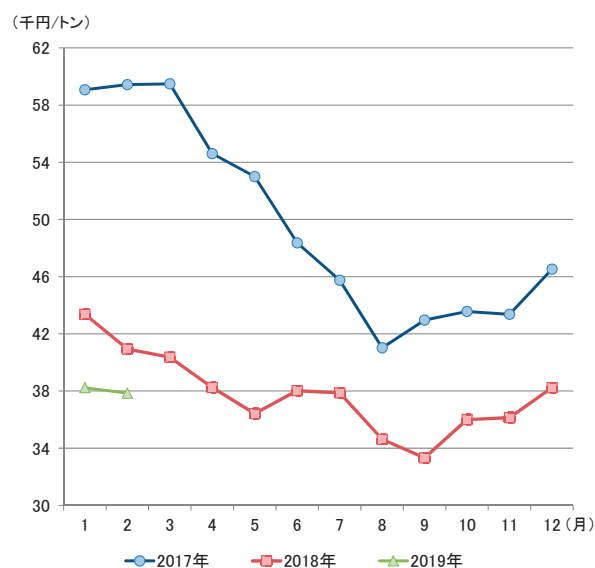
国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ 3万7846円
（前年同月比7.3%安、前月比1.0%安）

英国 42万8000円
（前年同月および前月輸入実績なし）

また、同月における豪州からの高糖度原料糖の1トン当たりの輸入価格は、3万9511円（前年同月比4.1%安、前月輸入実績なし）であった。

図5 分みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.14-110

【含みつ糖の輸入動向】

2月の輸入量は前年同月から大幅に減少

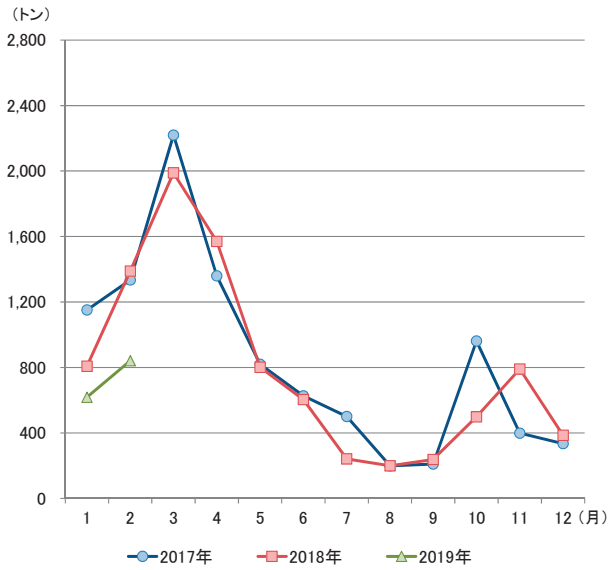
財務省「貿易統計」によると、2019年2月の含みつ糖（HSコード1701.13-000、1701.14-190）の輸入量は、841トン（前年同月比39.5%減、前月比36.1%増）であった（図6）。

輸入先国はタイおよび中国で、国別の輸入量は次の通りであった（図7）。

タイ 616トン
（前年同月比35.4%減、前月比2.3倍）

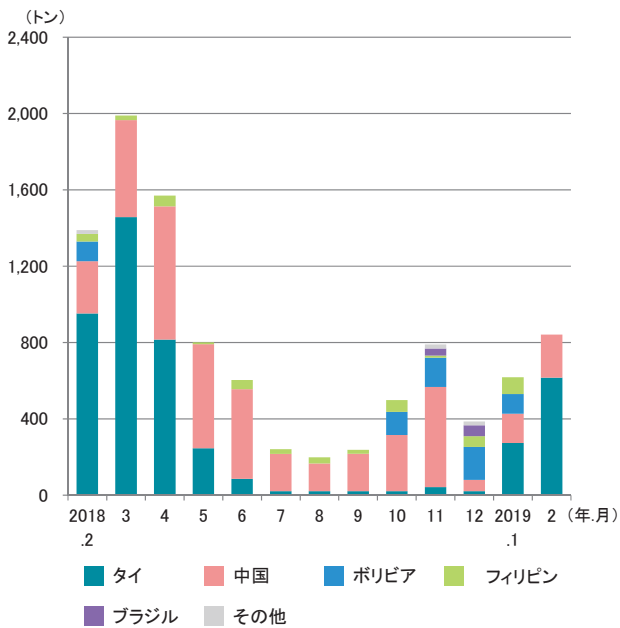
中国 225トン
（同17.6%減、同46.1%増）

図6 含みつ糖の輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

図7 含みつ糖の国別輸入量の推移



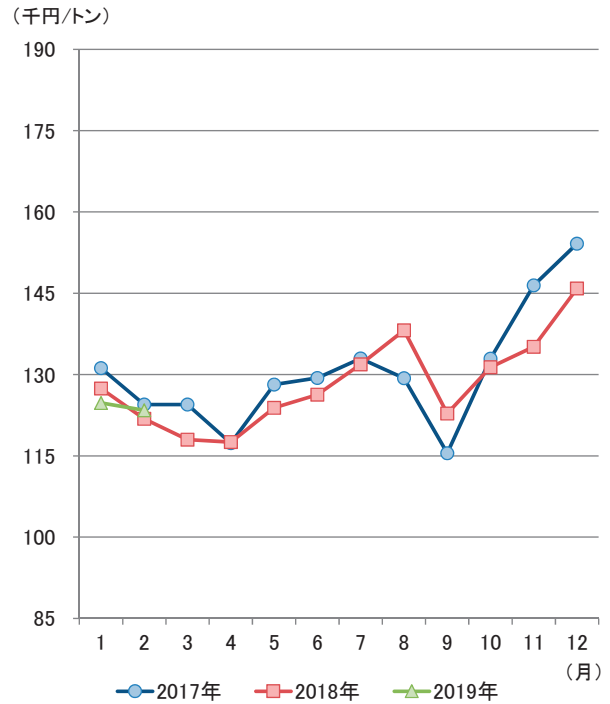
資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

2019年2月の1トン当たりの輸入価格は、12万3420円（前年同月比1.3%高、前月比1.1%安）であった（図8）。

国別の1トン当たりの輸入価格は、次の通りであった。

タイ	12万23円
	（前年同月比2.6%高、前月比3.8%高）
中国	13万2720円
	（同4.9%高、同3.8%高）

図8 含みつ糖の輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：HSコード1701.13-000、1701.14-190

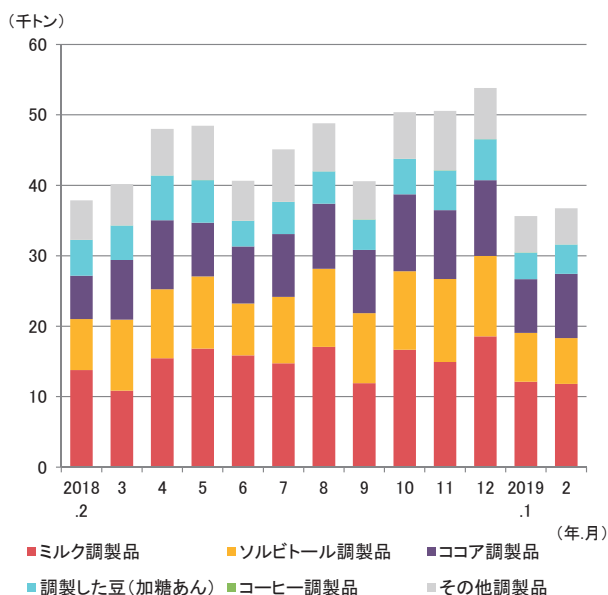
【加糖調製品の輸入動向】

2月の輸入量は前年同月からやや減少

財務省「貿易統計」によると、2019年2月の加糖調製品の輸入量は、3万6748トン（前年同月比3.0%減、前月比3.1%増）であった（図9）。

品目別の輸入量は、表4の通りであった。

図9 加糖調製品の品目別輸入数量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注：各品目のHSコードは次の通り。

【2018年12月まで】

ココア調製品：1806.10-100、1806.20-111、1806.20-190、1806.32-211、1806.90-211

コーヒー調製品：2101.11-100、2101.12-110、2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-190、2005.51-190

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

その他調製品：2106.90-590、2101.20-246、2106.90-251、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

【2019年1月から】

ココア調製品：1806.10-110、1806.10-190、1806.20-112、1806.20-113、1806.20-121、1806.20-129、1806.32-212、1806.32-213、1806.90-212、1806.90-213

コーヒー調製品：2101.11-110、2101.11-190、2101.12-111、2101.12-112、2101.12-246

調製した豆（加糖あん）：2005.40-191、2005.40-199、2005.51-191、2005.51-199

ミルク調製品：1901.90-219、2106.90-283、2106.90-284

ソルビトール調製品：2106.90-510

その他調製品：2106.90-590、2101.20-246、2106.90-252、2106.90-253、2106.90-281、2106.90-282、2106.10-219

表4 加糖調製品の品目別輸入数量（2月）

区分	輸入量 (トン)	前年同月比 (%)	前月比 (%)
ミルク調製品	11,822	▲ 14.1	▲ 2.4
ソルビトール調製品	6,490	▲ 10.5	▲ 6.6
ココア調製品	9,123	48.4	19.9
調製した豆（加糖あん）	4,163	▲ 18.3	10.4
コーヒー調製品	25	41.4	▲ 50.4
その他調製品	5,125	▲ 8.4	▲ 0.5

資料：財務省「貿易統計」

4. 価格動向

【市場価格】

砂糖、異性化糖ともに前月と同水準で推移

3月の糖種別・地域別の砂糖価格（日経相場）は次の通りであった。

上白糖（大袋）

東京 1キログラム当たり187～188円

大阪 同187～188円

名古屋 同191円

関門 同191円

上白糖（小袋）

東京 1キログラム当たり199～202円

大阪 同202円

本グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり192～193円

大阪 同192～193円

名古屋 同196円

ビート・グラニュー糖（大袋）

東京 1キログラム当たり187～188円

大阪 同187～188円

名古屋 同189円

3月の異性化糖の価格（日経相場、大口需要家向け価格、東京、タンクローリーもの、JAS規格品、水分25%）は、次の通りであった。

果糖分42%もの

1キログラム当たり131～132円

果糖分55%もの

同137～138円

【小売価格】

3月の上白糖小袋の地域間の価格差は最大で22.3円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける3月の上白糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、193.5円（前年同月差1.6円高、前月差1.5円高）であった。

同月の地域別^(注)の平均小売価格は次の通りであった（表5）。

表5 上白糖の地域別平均小売価格（3月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	200.3	2.4	▲ 0.4
東北	203.3	0.5	0.8
関東など	183.3	1.9	▲ 0.8
首都圏	195.9	9.4	6.5
中部	181.0	1.0	1.8
関西	192.3	1.4	0.4
中国・四国	201.1	▲ 6.0	▲ 2.9
九州・沖縄	194.6	▲ 3.9	▲ 1.0
全平均	193.5	1.6	1.5

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

最も高かったのは東北で、最も安かった中部との価格差は22.3円であった。

（注）地域の内訳は次の通りである。以下、グラニュー糖および三温糖も同じである。

関東など：茨城県、栃木県、群馬県、長野県、山梨県、静岡県

首都圏：東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県

中部：新潟県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、三重県、愛知県

関西：大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、和歌山県、奈良県

3月のグラニュー糖小袋の地域間の価格差は最大で70.5円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける3月のグラニュー糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、243.5円（前年同月差0.5円安、前月差0.9円高）であった。

同月の地域別の平均小売価格は次の通りであった（表6）。

表6 グラニュー糖の地域別平均小売価格（3月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	206.0	2.1	2.4
東北	276.5	▲ 0.9	▲ 0.8
関東など	249.2	0.5	0.7
首都圏	252.2	2.8	1.1
中部	251.0	1.9	0.4
関西	229.0	▲ 0.5	0.5
中国・四国	253.6	▲ 8.4	2.1
九州・沖縄	216.2	▲ 6.7	▲ 0.4
全平均	243.5	▲ 0.5	0.9

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ〈全国535店舗〉）

最も高かったのは東北で、最も安かった北海道との価格差は70.5円であった。

3月の三温糖小袋の地域間の価格差は最大で54.4円

KSP-POSデータ（全国535店舗）によると、スーパーにおける3月の三温糖小袋（1キログラム）の平均小売価格は、236.9円（前年同月差1.3円高、前月差0.2円高）であった。

同月の地域別の平均小売価格は次の通りであった（表7）。

表7 三温糖の地域別平均小売価格（3月）

（単位：円/kg）

地域	平均価格	対前年同月価格差	対前月価格差
北海道	246.3	▲ 0.7	2.0
東北	262.4	4.8	0.3
関東など	241.7	▲ 0.7	▲ 2.7
首都圏	232.8	1.8	0.7
中部	229.1	1.3	▲ 0.6
関西	230.8	6.2	1.0
中国・四国	250.1	▲ 3.2	0.3
九州・沖縄	208.0	▲ 2.7	0.0
全平均	236.9	1.3	0.2

資料：農畜産業振興機構調べ（原典：KSP-POSデータ（全国535店舗））

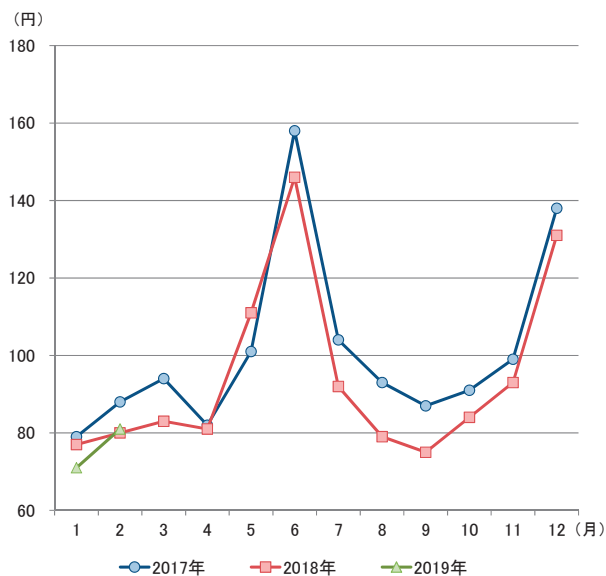
最も高かったのは東北で、最も安かった九州・沖縄との価格差は54.4円であった。

【購入金額および購入量】

2月の砂糖の支出金額は前年同月からわずかに上昇

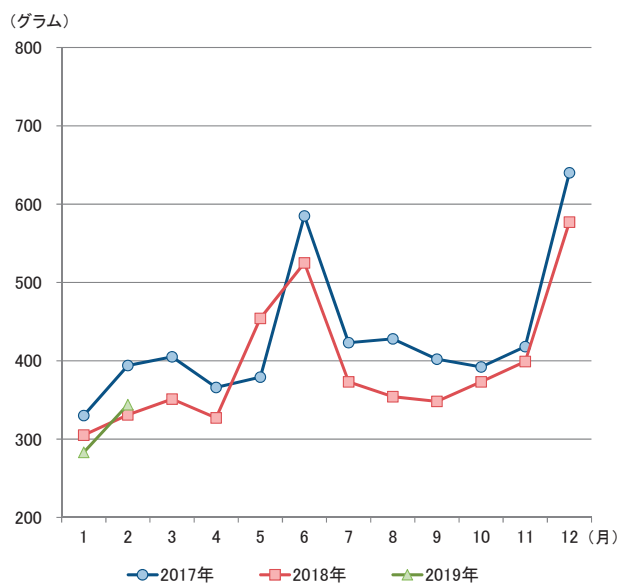
総務省「家計調査」によると、2019年2月における100世帯当たりの砂糖の購入頻度は35、1世帯（2人以上）当たりの支出金額は、81円（前年同月比1.3%高、前月比14.1%高）であった（図10）。また、同月の1世帯当たりの砂糖の購入数量は、344グラム（同3.9%増、同21.6%増）であった（図11）。

図10 1世帯当たりの砂糖の支出額の推移



資料：総務省「家計調査」

図11 1世帯当たりの砂糖の購入数量の推移



資料：総務省「家計調査」